

# 米国経済・金融概況 (2024年10月)

2024年10月24日  
経営企画部経済調査室(ニューヨーク)

# 1. 企業活動

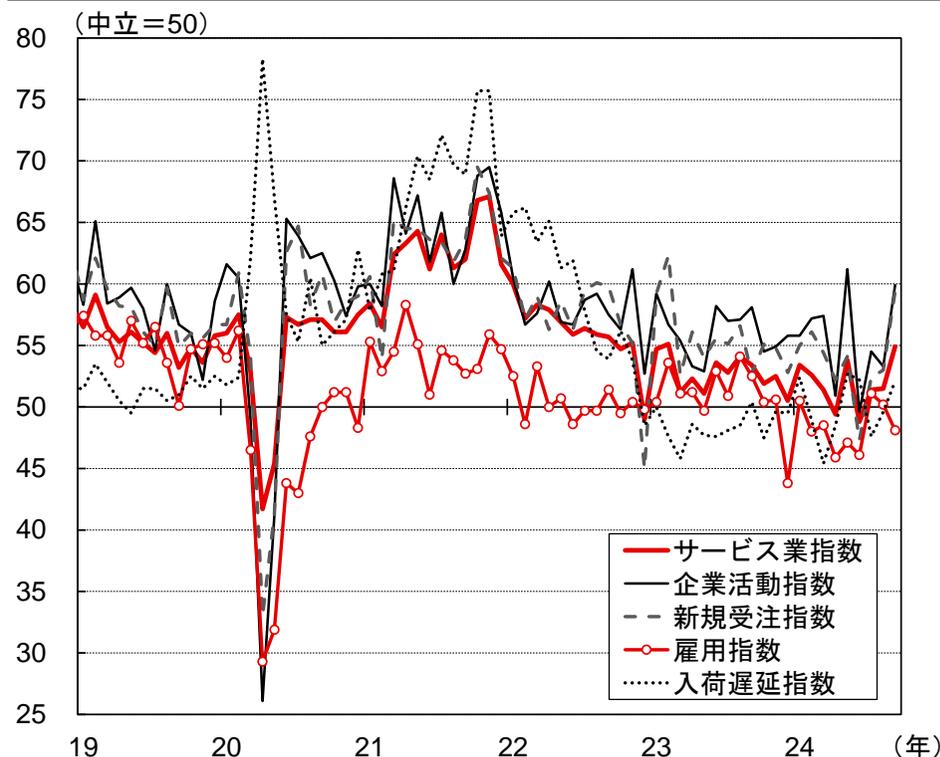
- 製造業の景況感・活動状況を表すISM製造業指数(総合指数)は、9月に47.2と前月から横這い。指数の構成項目をみると、先行指標の新規受注指数(46.1、同+1.5ポイント)は3ヵ月ぶりに上昇、生産指数(49.8、同+5.0ポイント)は6ヵ月ぶりに上昇した一方、在庫指数(43.9、同▲6.4ポイント)、雇用指数(43.9、同▲2.1ポイント)は低下。金融政策と大統領選挙を巡る不確実性により、企業は設備及び在庫投資に消極的で、需要は引き続き低迷しているとISMは指摘。産業別では全18産業のうち5産業が拡大、13産業が縮小を報告(8月は5産業が拡大、12産業が縮小、1産業が横這い)。
- 9月のISMサービス業指数(総合指数)は54.9(前月比+3.4ポイント)と3ヵ月連続で上昇。雇用指数(48.1、同▲2.1ポイント)は低下したものの、企業活動指数(59.9、同+6.6ポイント)、新規受注指数(59.4、同+6.4ポイント)が大幅に上昇。回答企業のうち、小売業は売上が前年を上回り始めたコメント。産業別では全18産業のうち12産業が拡大、5産業が縮小、1産業が横這いを報告(8月は10産業が拡大、7産業が縮小、1産業が横這い)。

ISM製造業指数の推移



(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の推移

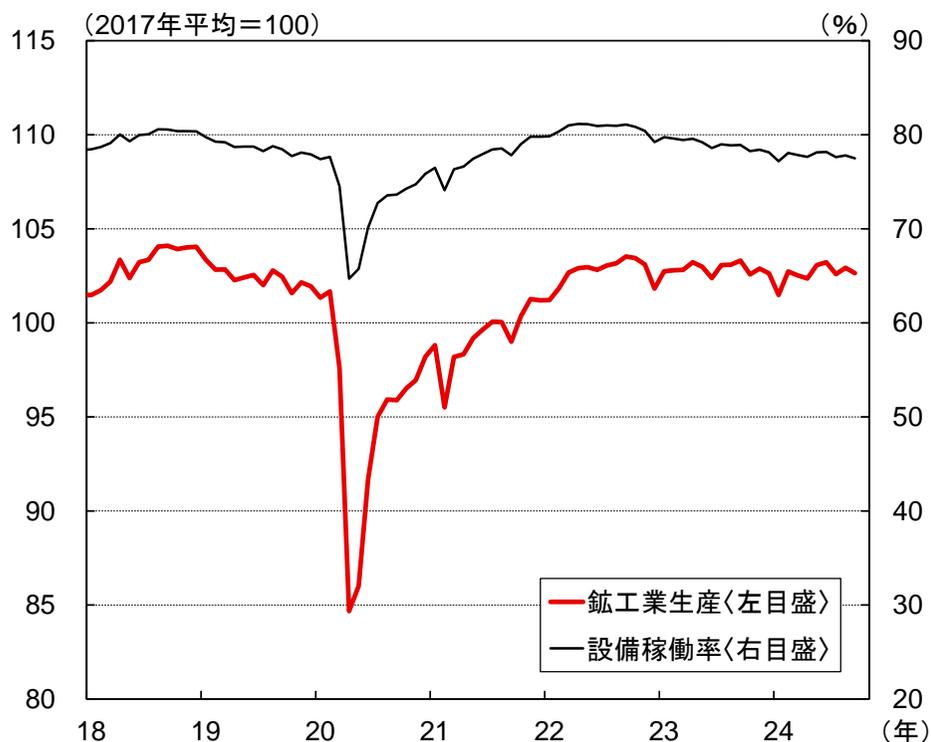


(資料)ISM(全米供給管理協会)統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

## 2. 生産

- 9月の鉱工業生産は前月比▲0.3%と2カ月ぶりに減少。ボーイング社のストライキと2つのハリケーン(ヘリーン、ミルトン)の影響が、全体をそれぞれ0.3%ポイントずつ下押ししたと公表元のFRBは推計。産業別にみると、全体の約7割を占める「製造業」(同▲0.4%)は、ストライキの影響を受けた「航空宇宙・その他輸送機器」(同▲8.3%)や「自動車・同部品」(同▲1.5%)が減少。「鉱業」(同▲0.6%)は石油・ガス採掘がハリケーンの影響を受けて減少。一方、「公益事業(電気・ガス)」(同+0.7%)は3カ月ぶりに増加。9月の設備稼働率は77.5%と前月から0.3%ポイント低下。
- 8月の耐久財受注は前月比+0.0%と横這い。内訳をみると、「電機・家電」(同+2.4%)、「金属製品」(同+0.7%)、「コンピュータ・電子部品」(同+0.4%)、「機械」(同+0.4%)は増加した一方、「輸送用機器」(同▲0.8%)は変動の大きい「民間航空機」(同▲7.5%)を中心に減少。設備投資の先行指標であるコア資本財受注(非国防資本財受注、除く航空機)は同+0.3%と2カ月ぶりに増加。

鉱工業生産と設備稼働率の推移



(資料)FRB統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

耐久財受注の推移

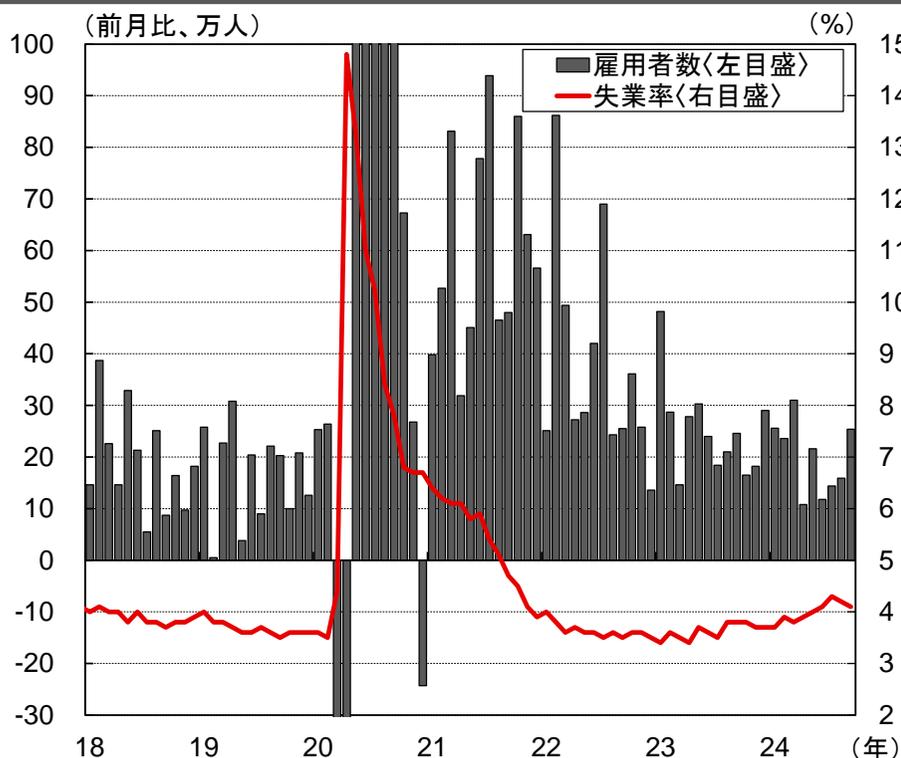


(資料)米商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

### 3. 雇用

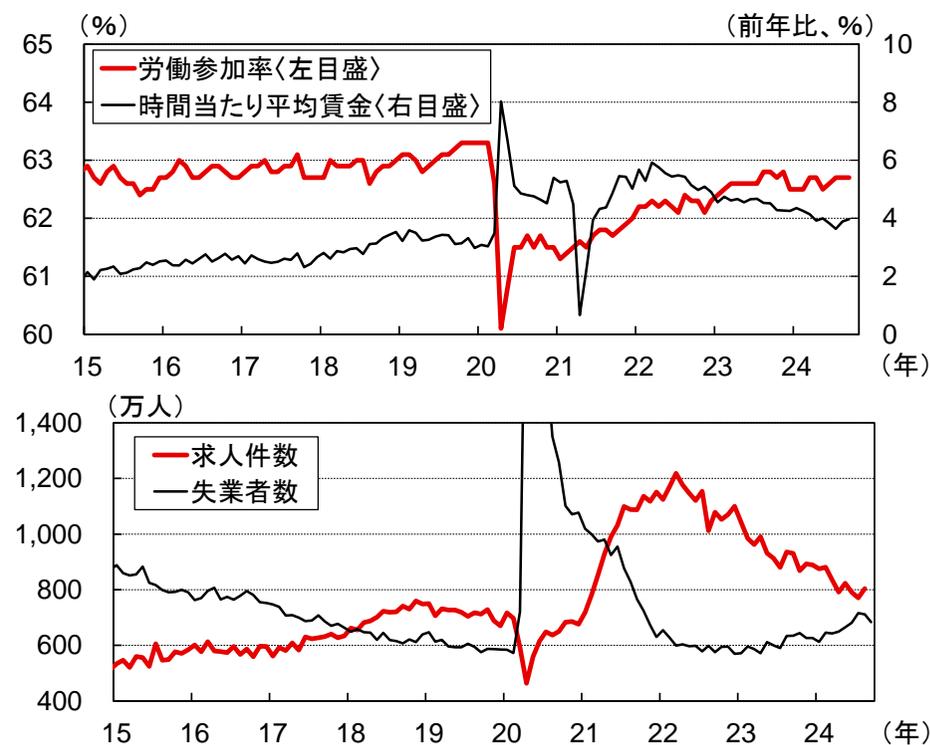
- 9月の非農業部門雇用者数は前月比+25.4万人と堅調に増加し、市場予想(Bloomberg集計:同+15.0万人)を大幅に上回るとともに、前月(同+15.9万人、改定値)も同+14.2万人から上方修正。業種別にみると、「医療・社会扶助」(同+7.2万人)、「飲食店」(同+6.9万人)、「公務」(同+3.1万人)、「建設業」(同+2.5万人)、「専門・ビジネスサービス」(同+1.7万人)、「小売業」(同+1.6万人)等の幅広い業種で増加し、「製造業」(同▲0.7万人)は前月(同▲2.7万人)から減少幅が縮小。
- 9月の失業率は4.1%(前月差▲0.1%ポイント)と2ヵ月連続で低下。労働参加率は62.7%と3ヵ月連続で横這い。時間当たり平均賃金(民間部門)は前年比+4.0%(8月:同+3.9%)と小幅加速。
- 8月の求人件数は804.0万件(前月比+32.9万件)と3ヵ月ぶりに増加。求人件数を失業者数で割った求人倍率は1.13倍と前月(1.08倍)から上昇したものの、パンデミック前の水準(2020年2月:1.22倍)を下回っている。

非農業部門雇用者数・失業率の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

労働参加率・平均賃金・求人件数・失業者数の推移

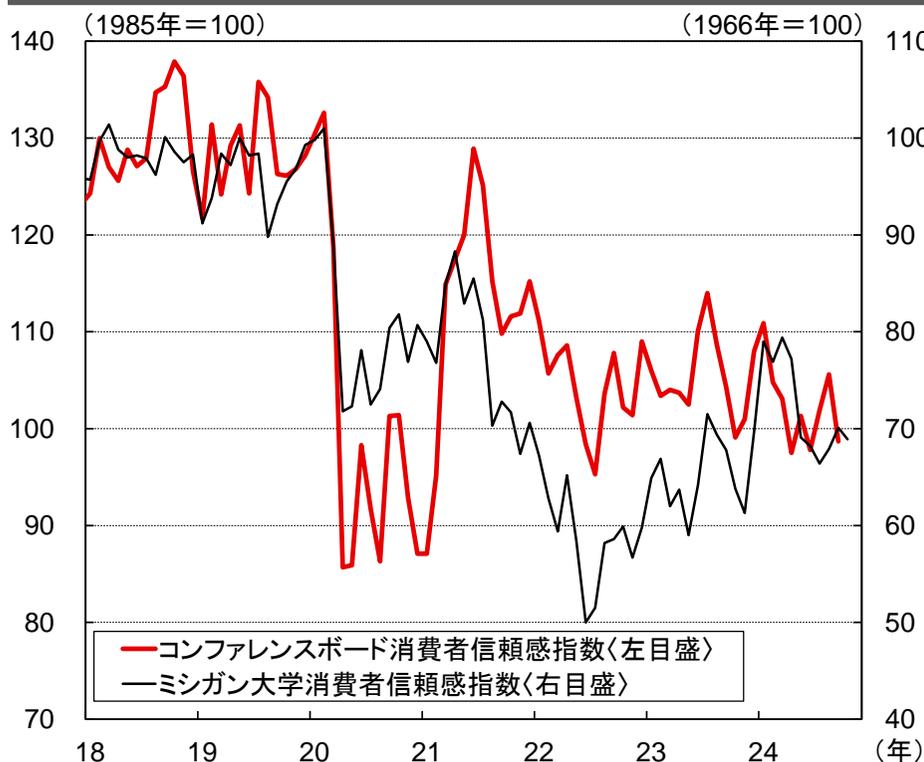


(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

## 4. 個人消費

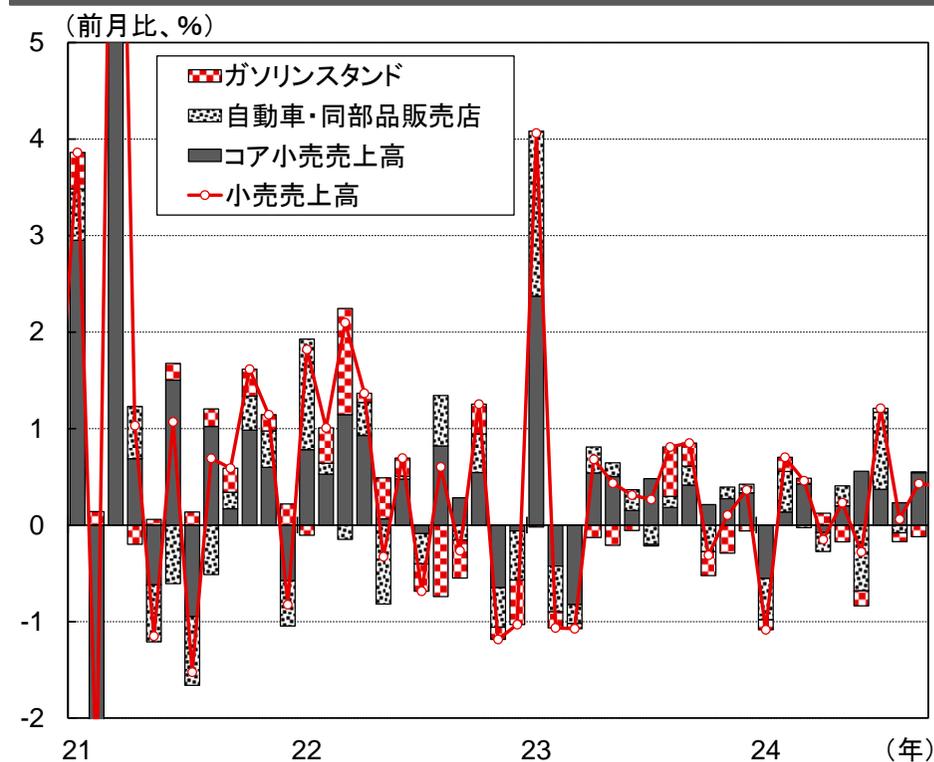
- 9月のコンファレンスボード消費者信頼感指数は98.7(前月比▲6.9ポイント)と3カ月ぶりに低下。労働市場に対する懸念が反映されたとコンファレンスボードは指摘。また、10月のミシガン大学消費者信頼感指数も68.9(前月比▲1.2ポイント)と3カ月ぶりに低下。ミシガン大学の期待インフレ率は1年先が2.9%(前月:2.7%)と上昇。
- 9月の小売売上高は前月比+0.4%(8月:同+0.1%)と3カ月連続で増加。また、「自動車・部品販売店」と「ガソリンスタンド」を除くコア小売売上高は同+0.7%(8月:同+0.3%、改定値)と5カ月連続で増加し、堅調を維持。業種別にみると、「電機・家電販売店」(同▲3.3%)、「ガソリンスタンド」(同▲1.6%)が減少した一方、「衣料品販売店」(同+1.5%)、「飲食店」(同+1.0%)、「総合小売店」(同+0.5%)、「無店舗小売店」(同+0.4%)等が増加。

消費者信頼感指数の推移



(資料)コンファレンスボード、ミシガン大学統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

小売売上高の推移

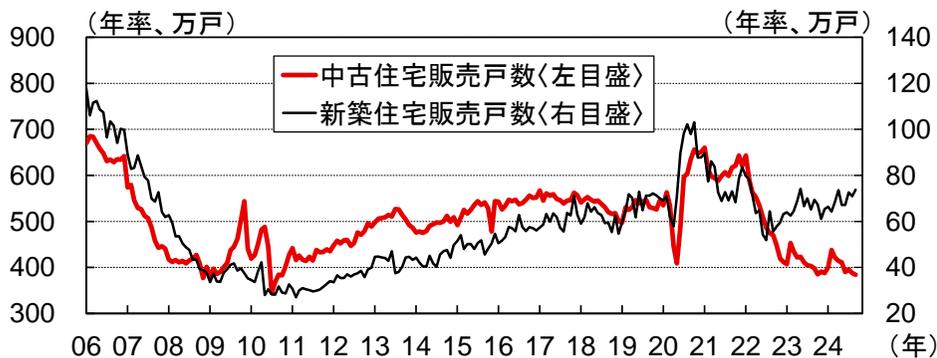
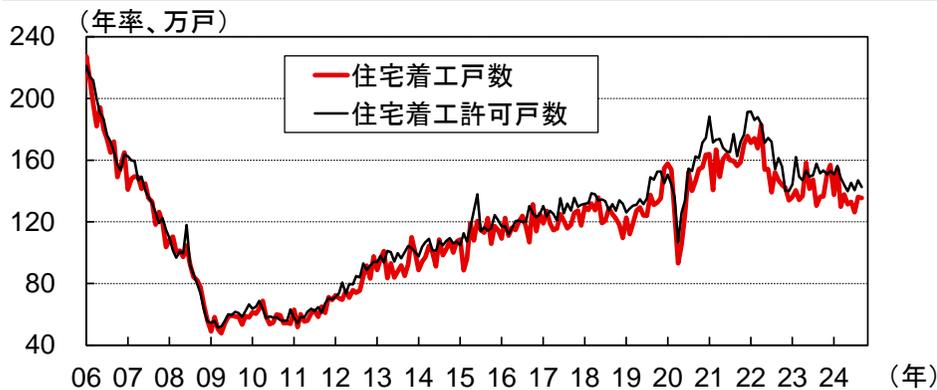


(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

## 5. 住宅

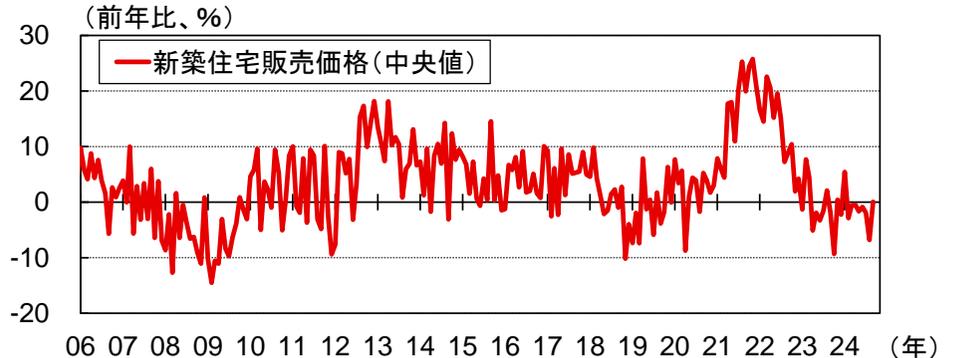
- 9月の住宅着工戸数は前月比▲0.5%の年率135.4万戸(季節調整済)と小幅減少。内訳をみると、一戸建住宅は同+2.7%と2ヵ月連続で増加した一方、集合住宅(5世帯以上)は同▲4.5%と2ヵ月連続で減少。先行指標である住宅着工許可戸数は同▲3.1%の年率142.5万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに減少。
- 9月の住宅販売戸数は、中古住宅が前月比▲1.0%の年率384万戸(季節調整済)と2ヵ月連続で減少した一方、新築住宅は同+4.1%の年率73.8万戸(季節調整済)と2ヵ月ぶりに増加。
- 9月の住宅販売価格は、中古住宅が404,500ドル(中央値)、前年比+3.0%(8月:同+2.5%)と伸びが加速。新築住宅は426,300ドル(中央値)、同+0.0%(8月:同▲6.8%)と8ヵ月ぶりにマイナス圏を脱した。

住宅着工戸数・着工許可戸数・住宅販売戸数の推移



(資料)全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

住宅販売価格の推移



(資料)全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

## 6. 物価

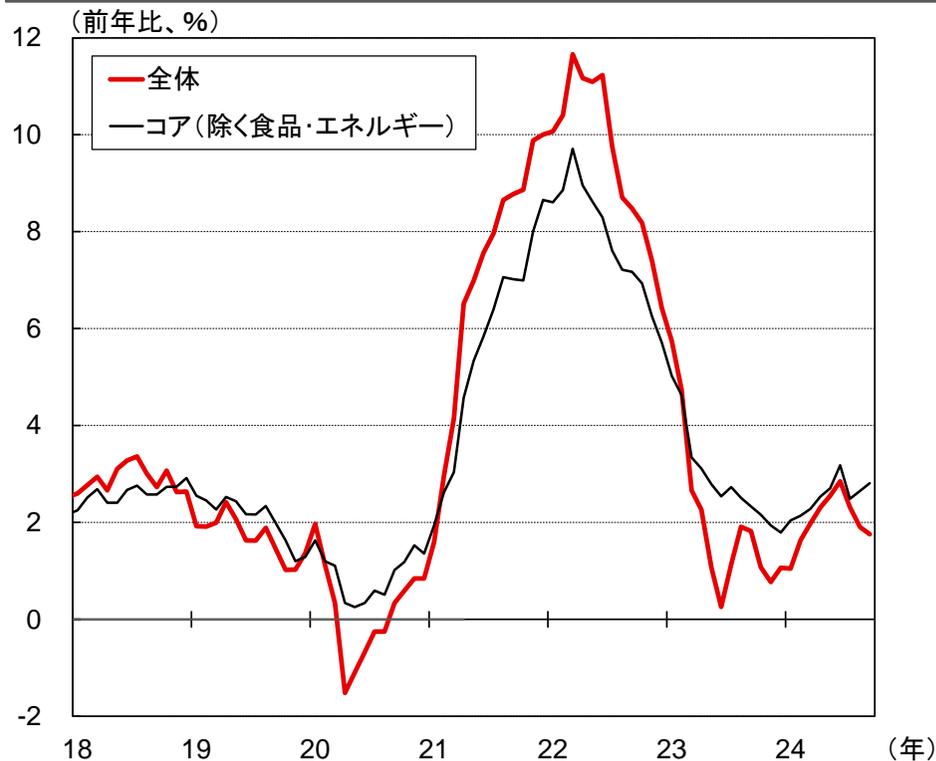
- 9月の消費者物価指数は、総合指数が前年比+2.4%(8月:同+2.5%)と6カ月連続で伸びが鈍化した一方、食品とエネルギーを除いたコア指数は同+3.3%(8月:同+3.2%)と加速。品目別にみると、「ガソリン」が同▲15.3%(8月:同▲10.3%)と下落幅が拡大し、総合指数の伸びを下押し。一方、コア指数の構成目目のうち「中古自動車」は同▲5.1%(8月:同▲10.4%)と下落幅が縮小、「航空運賃」は同+1.6%(8月:同▲1.3%)と上昇に転じた。
- 9月の生産者物価指数は前年比+1.8%(8月:同+1.9%)と3カ月連続で伸びが鈍化。内訳をみると、「財」は同▲1.1%(8月:同▲0.1%)と下落幅が拡大した一方、「サービス」は同+3.1%(8月:同+2.9%)と伸びが加速。食品とエネルギーを除いたコア指数は同+2.8%と前月(8月:同+2.6%)から伸びが加速。

消費者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

生産者物価指数の推移



(資料)米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

## 7. 国際収支

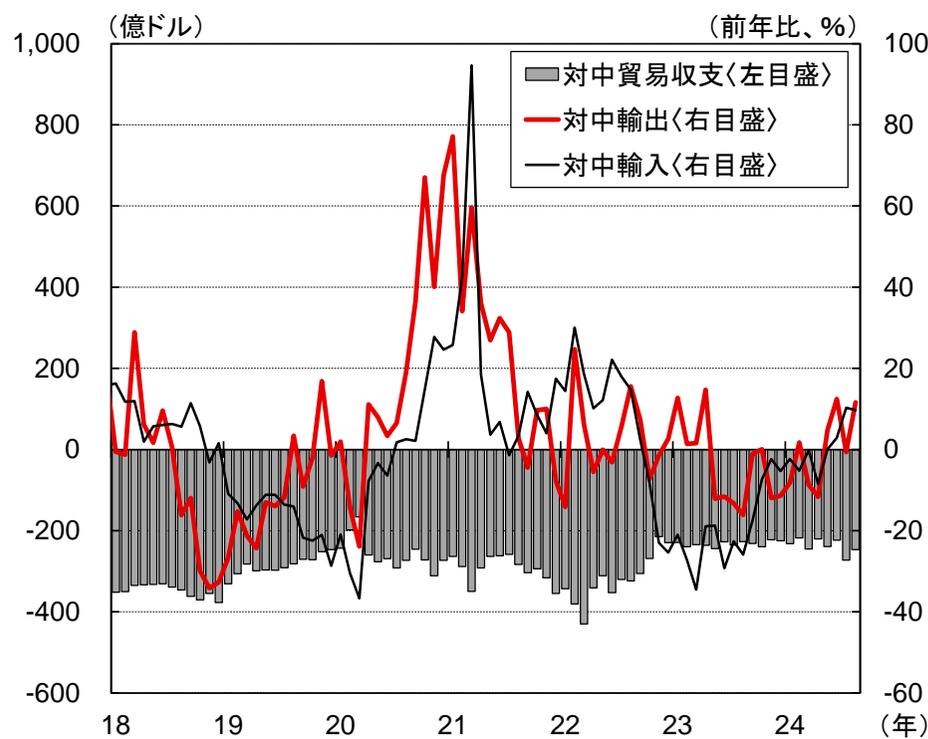
- 8月の貿易収支(財・サービス)は704億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比▲10.8%(同▲85億ドル)と2ヵ月ぶりに縮小。輸出は同+2.0%(同+53億ドル)と3ヵ月連続で増加、輸入は▲0.9%(同▲32億ドル)と3ヵ月ぶりに減少。前年比で見ると、輸出は+5.1%、輸入は+7.6%。
- 財の貿易収支を国・地域別で見ると、米国の貿易赤字(財)の3分の1程度を占める中国は8月に247億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比▲9.5%(同▲26億ドル)と縮小。対中輸出(財)は同+9.7%(同+11億ドル)と2ヵ月ぶりに増加、対中輸入(財)は同▲3.8%(同▲15億ドル)と2ヵ月ぶりに減少。前年比で見ると、対中輸出(財)は+11.6%と2ヵ月ぶりに増加、対中輸入は+9.7%と4ヵ月連続で増加。

貿易収支と輸出入(財・サービス)の推移



(注)国際収支ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。  
(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

対中貿易収支と対中輸出入(財)の推移



(注)通関ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。  
(資料)米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

## 8. 金融市場動向

- 10年物国債利回りは、9月FOMCで0.5%ポイントの大幅な利下げを行った後は堅調な経済指標が続き、今後は緩やかなペースで利下げが行われるとの見方が強まったことから、足元では約3か月ぶりに4.2%台まで上昇。
- ダウ平均株価は、景気・雇用への懸念が後退して10月半ばに史上初となる43,000ドルを突破。その後は、長期金利上昇への懸念から軟調に推移。

10年物国債利回りの推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

ダウ平均株価の推移



(資料) Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

---

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名 : 株式会社三菱UFJ銀行 経済調査室(ニューヨーク)  
1251 Avenue of the Americas, New York, NY 10020, USA

照会先 : ウォルショー 瞳 e-mail: hwalshaw@us.mufg.jp